

研究の促進と成果の可視化に向けて —オープンアクセスの意義と本学における支援策について—

日時 2025年3月18日(火) 14:00～16:00 (13:30開場)

会場 人文社会科学系棟 講義室E160 (Zoomによる同時配信あり)

対象 新潟大学の教職員・大学院生

参加方法 次のフォームからお申し込みください。
URL : <https://forms.office.com/r/dSjb6NqEND>
[締切：3月13日(木)] *会場参加の場合は当日参加も受け付けます。



2025年度以降に公募される競争的研究費の受給者に対し、論文及び根拠データの学術雑誌掲載後、即時オープンアクセス(OA)化が義務付けられることになりました。論文をOAにすることで本学の研究成果を発信し、さらなる研究につなげていくことが重要になってきています。

そこで今回のFDでは、オープンアクセスへの基本的な理解を深めていただくとともに、研究とオープンサイエンスについて具体的な事例を交えてご説明いたします。

学術コミュニケーションにおける オープンアクセス・オープンサイエンスの意義について

林 和弘 氏

文部科学省 科学技術・学術政策研究所
データ解析政策研究室長



オープンアクセスの動向と 研究成果の可視化・再利用について

山之城 チルドレス 智子 氏

Taylor & Francis Group,
Business Development Manager



報告「2025年度のAPC補助について」

棚橋 是之 (新潟大学 学術情報部 学術情報管理課長)

「機関リポジトリによるオープンアクセスの登録支援について」

平田 完 (新潟大学 学術情報部 学術情報サービス課長)